



KONICA MINOLTA

Giving Shape to Ideas

株主通信

2015年 夏号

コニカミノルタ株式会社

 JPX-NIKKEI 400

JPX 日経インデックス400 構成銘柄

証券コード：4902



「株主の皆様へ」

新中期経営計画の方針のもと、引き続き事業の高付加価値化と強靱な体質づくりを推進します。

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。「株主通信2015年夏号」をご高覧いただくにあたりまして、ご挨拶申し上げます。

当第1四半期連結累計期間における当社グループの連結売上高は、2,486億円(前年同期比9.7%増)となりました。情報機器事業及びヘルスケア事業での増収が産業用材料・機器事業の減収を補いました。

営業利益は100億円(同30.3%減)となりました。事業面では、情報機器事業及びヘルスケア事業は主力製品の販売増により利益増を確保しましたが、産業用材料・機器事業では機能材料の販売減により利益が減少しました。一方、当期間是对ユーロの円高影響が利益を押し下げたほか、当期間に実施した構造改革に伴う一時的費用20億円、また前年同期に計上された資産売却益15億円、併せて35億円の特殊要因が営業減益43億円には当初より織り込まれていました。

これらの結果、親会社の所有者に帰属する四半期利益は65億円(同29.6%減)となりました。

通期の業績予想につきましては、当社を取り巻く内外の経営環境の先行きにいまだ不透明感はあるものの、主要事業は計画に沿って概ね堅調に推移していることから、本年5月13日公表の通期見通しを据え置き、売上高1兆1,000億円、営業利益770億円、親会社の所有者に帰属する当期利益500億円、としています。

また、株主の皆様に対する利益配分につきましては、第2四半期末配当は期初予想の1株当たり15円に変更はありません。また、100億円を上限とする自己株式の取得は7月に予定通り終了いたしました。加えて、自己株式の消却も、6月末に900万株実施いたしました。

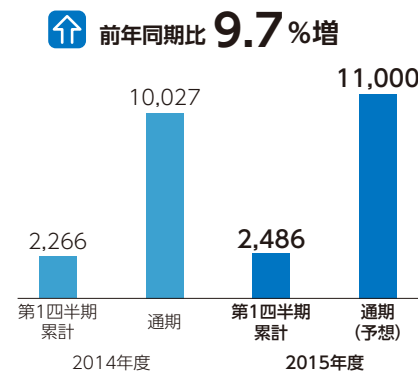
上記に掲げた業績達成に向けて、中期経営計画の方針に基づいて業容転換による事業の高付加価値化を推進するとともに、モノ作り改革とコーポレート改革により強靱な企業体質を確立し、製造業としての稼ぐ力の向上に努めます。

今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

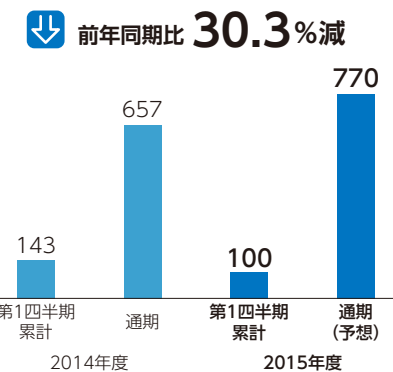
2015年8月
コニカミノルタ株式会社
代表執行役社長

山名昌衛

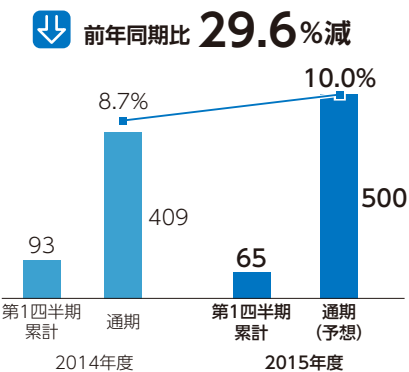
売上高 (単位:億円)



営業利益 (単位:億円)

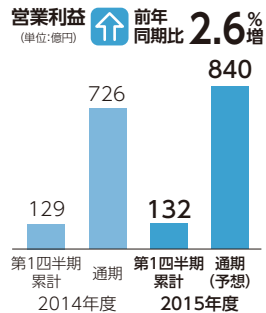
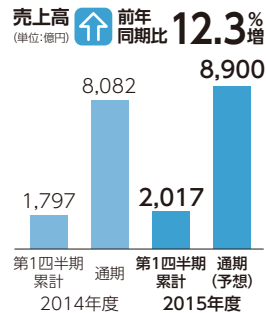


親会社の所有者に帰属する当期利益 (単位:億円) / ROE



情報機器事業

複合機とITサービスのハイブリッド型販売やMPMサービスなど、新たな業態が成果を出したことで増収・増益となりました。



オフィスサービス

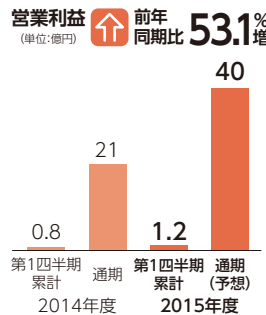
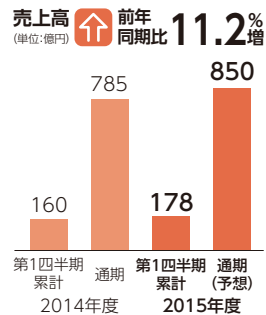
- グローバルでA3カラー・モノクロ機的大幅増、欧米でのハイブリッド型販売の拡大により増収。
- OPS(出力環境最適化サービス)・GMA(多国籍大手企業向け営業)の売上もグローバル体制により欧・米・アジアを中心に着実に増加。

商業・産業印刷

- グローバルにカラーデジタル印刷機旗艦製品の販売が好調に推移し、市場における累積設置台数も増加。
- MPMサービスは、Ergo社が加わり大幅増。Ergo社の買収効果を除いても13%増とグローバルで順調に拡大。

ヘルスケア事業

販売体制を強化している米国・インドでの好調に加え、国内市場の回復もあって増収・増益を達成しました。



デジタル

- 国内はCR*1 / 超音波画像診断装置が、海外ではカセット型DR*2が販売増。
- ブラジルのX線システム機器製造会社の買収に合意。同国でのデジタル製品の拡販加速。

*1 Computed Radiography (X線フィルムの代わりにイメージングプレートを用いたX線撮影法)の略。

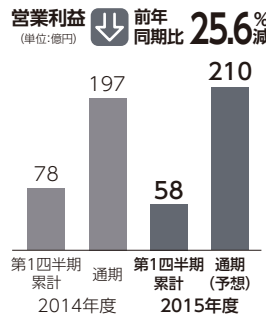
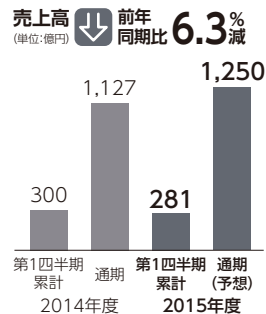
*2 Digital Radiography (デジタルX線撮影)の略。

アナログ・その他

- 国内仕入れ商材が販売増となり増収。

産業用材料・機器事業

全体的に販売数量が減少したものの、注力商品の好調により、小幅な減収・減益にとどまり、通期では増収・増益を見込んでいます。



産業用光学システム

- 計測機器、産業・プロ用レンズは堅調を維持。
- 市場縮小が続くデジタルコンパクトカメラ用レンズ等が前年割れ、当分野全体の売上は前年比微減。

機能材料

- TACフィルムは、大型液晶テレビ向けが概ね前年並みの販売数量を維持。
- 前年1Qに需要旺盛だったノートPC向けの反動減で、前年同期比減収も、前四半期比では増収。

グローバルな販売力強化に向けて積極的なM&Aを推進

情報機器事業では、グローバル市場での販売力の強化に向けて、各分野における成長市場において、現地の有力企業を対象としたM&Aを積極的に推進しています。

オフィスサービス分野では、欧米を中心に複合機とITサービスを組み合わせたハイブリッド型販売を強化するなか、同様のビジネスで実績を挙げている米国のディーラー、SymQuest Group, Inc.を2015年6月に買収。同社が培ってきたハイブリッド型販売に対する知見や人財、ノウハウを活用して米国市場での提案活動を強

化すると同時に、同社の拠点網を駆使して販売・サービスの体制拡充を図ります。

商業・産業印刷分野では、新興国の中でも成長が著しいインドでの事業拡大を目的に、現地の大手ディーラー、Monotech Systems Limitedからプロダクションプリント(PP)分野向け事業を買収。同社の販売拠点を組み入れることで、インド全域を網羅する直販体制を強化し、同国PP市場におけるリーディングカンパニーとしての位置付けをより強固なものにします。

米国の大手ディスプレイ検査システムメーカーを買収し技術シナジーを発揮して製造検査領域へ参入

コニカミノルタは、従来よりディスプレイ・光源色測定におけるトップメーカーとして、世界中のお客様に高品質な製品とソリューションを提供してまいりました。この「ジャンルトップ」のポジションを確保しつつ、関連した成長分野への参入を視野に入れた業容転換を目指して、米国の大手ディスプレイ検査システムメーカー Radiant Vision Systems, LLCを買収しました。同社はグローバルなディスプレイ検査市場において、お客様の要望に応じてカスタマイズした統合型検査システムを開発・提供するリーディングメーカーです。

今回の買収により、Radiant社が強みを持つ外観検査システムと、コニカミノルタが得意とす

る色測定の独自技術とのシナジーを強化し、今後急成長が見込まれる製造検査領域への参入を推進していきます。



Radiant社の主要製品